

## 4. 水族館記録 2006年

### 1. 研究・教育

- 1月13日 西田宏記 教授（大阪大学大学院理学研究科）と真壁和裕 教授（徳島大学総合科学部）が、研究用マボヤ450個体を東京大学海洋研究所 国際海洋研究センター（岩手県大槌町）から搬入し、大型実験水槽（第3水槽室）の海水を冷却して畜養を始めた。その後数度回収に訪れ、5月10日に終了・撤収した。
- 1月18日 鈴木 豪 院生（農学研究科）が、造礁サンゴに関する研究のための照明実験を第3水槽室作業室で行った。
- 2月 3日 兵庫県立姫路飾西高等学校サイエンスサーベイコース（SSC）臨海実習（生徒20名、教諭2名）の見学を指導した。
- 2月10日 兵庫県立姫路飾西高等学校サイエンスサーベイコース（SSC）臨海実習（生徒20名、教諭2名）の見学を指導した。
- 3月20日 京都大学理学部生物系臨海実習Ⅲ部学生（10名）の見学を指導した。
- 3月28日 京都大学理学部生物系臨海実習Ⅱ部学生（8名）の見学を指導した。
- 3月29日 公開臨海実習学生（13名）の見学を指導した。
- 4月15日 京都大学理学研究科インターラボ（生物学専攻学生M1、51名）の見学を指導した。
- 5月 4日 京都大学ポケゼミ（新入生10名）の見学を指導した。
- 5月28日 放送大学京都学習センター公開講座臨海実習生（18名）の見学を指導した。
- 5月30日-6月26日 Mia Steinbergさん（アメリカ合衆国・デラウェア大学）が行った潮間帯性カニ類（イソガニやケフサイソガニなど）の研究に関して、採集・運搬・備蓄に協力した。
- 6月30日 滋賀県理科教育研究会サイエンスパートナーシッププロジェクト（SPP）（教員20名）の見学を指導した。
- 7月2日-6日 博物館実習を、藪中麻衣子さん（北里大学水産学部水産生物科学科4年次生）・納城なつみさん（奈良女子大学理学部生物学科4回生）に行った。
- 7月7日-8月20日 深見裕伸 助手と鈴木 豪 院生が、第3水槽棟屋上培養温室の水槽設備を利用して造礁サンゴ類の産卵調査を行った。
- 7月13日 大阪市立大学理学部臨海実習生（3回生17名、教員6名）の見学を指導した。
- 7月23日 滋賀県立膳所高等学校第37回生物実習（生徒24名、教諭5名）の見学を指導した。
- 7月28日 大阪府立豊中高等学校サイエンスパートナーシッププロジェクト（SPP）（生徒8人、教員3名）の見学を指導した。
- 7月30日 Allen G. Collins 博士（アメリカ合衆国・国立スミソニアン自然史博物館）によるプラコゾアの採集に協力した。5つの水槽にスライドガラスのトラップを吊り下げ、8月17日に回収した。
- 8月1日・9月26日 伊谷 行 助教授（高知大学教育学部）に研究用として、イソスジェビノハラヤドリが寄生したイソスジェビ20個体（8月1日）と16個体（9月26日）を、酸素パッキングして送った。数日前に番所崎のタイドプールで採集しておいたもの。
- 8月 1日 Annette Brockerhoff 博士（ニュージーランド・カンターベリー大学）が研究用として仕掛けたカニ採集用トラップの回収作業に協力した。
- 8月 7日 京都大学理学部生物系臨海実習Ⅰ部学生（9名）の見学を指導した。
- 8月 7日 京都大学理学部生物系臨海実習Ⅳ部学生（3名）の見学を指導した。

- 9月 3日 紀本電子工業(株)(白山義久 教授と連携)が、第3水槽棟作業室に炭酸ガス計測機器を新たに設置した。
- 9月7日 京都大学理学部生物系臨海実習 I 部学生(2名)の見学を指導した。
- 9月7日 公開臨海実習学生(10名)の見学を指導した。
- 9月14日 大阪大学理学部生物学臨海実習生(2回生24名、教員4名)の見学を指導した。
- 10月 4日 白浜町立白浜第一小学校低学年(生徒40名、教員3名)の見学を指導した。
- 10月27日 白浜町立白浜第一小学校高学年(生徒47名、教員3名)の見学を指導した。
- 10月27日 和歌山県立田辺高等学校サイエンスパートナーシッププロジェクト(SPP)(2年生38名、教員4名)の見学を指導した。
- 11月 5日 放送大学京都学習センター公開講座臨海実習生(13名)の見学を指導した。
- 12月17日 イソスジェビノハラヤドリが寄生したイソスジェビ10個体とアシナガスジェビ10個体を、伊谷 行 助教授(高知大学教育学部)に研究用として提供した。

## 2. 普及(報道関係は放送および掲載分のみ)

- 1月 9日 冬休みイベント「解説ツアー」を終了した。教員5名と技術職員2名とで、12月23日から実施した(1月1日-3日を除く。定員10名)。10時45分から約1時間、展示水槽とバックヤードを案内し、計77人が参加した。
- 1月 9日 元気工房(株)に、水族館の写真3枚を提供した。「水族館を丸ごと楽しめる本」(仮題)に収録・掲載するため。
- 3月17日 紀伊民報(夕刊新聞)が、ヤマトメリベ(303号水槽)を取材した(3月21日付け)。
- 3月25日-4月9日 春休みイベント「解説ツアー」を教員5名、技術職員2名、元教員1名で実施した(定員10名)。11時15分から約1時間、展示水槽とバックヤードを案内し、計64人が参加した。
- 4月18日 紀伊民報が、ヒゲハギ(真鍋 正さんから受贈、303号水槽)の取材をした(4月27日付け)。
- 4月19日 じゃらん(情報誌)が、夏休みイベント「解説ツアー」について取材し、「ファミリーじゃらん 6/10発売号」(関西じゃらん臨時増刊)に掲載された。
- 4月22日 水族館ウェブページに「年次記録・集計」項目を追加掲載した。1997年以降の「瀬戸臨海実験所年報」に収録されている記事・資料の中から、水族館記録、観覧者月別集計、飼育生物集計、月別平均飼育水温を抜粋したもの。
- 4月27日 日本動物園水族館協会のウェブページの2002~2004年生物集計項目に、当館の分をアップロードした。
- 7月21日-8月31日 夏休みイベント「解説ツアー」を教員5名と技術職員3名で実施した。バックヤードを案内する「裏側ツアー」(10:30~11:00、定員10名)と展示水槽を案内する「表側ツアー」(11:15~12:00、定員15名)の二本立てで行い、計564人が参加した。
- 7月24日・26日 田辺高等学校生物部一行(生徒7名、教諭1名)を、水族館バックヤードと研究棟などに案内した。
- 7月25日 紀伊民報が、アオチビキについて取材した(7月29日付け)。
- 8月 3日 紀伊民報が、ナヌカザメの新生児について取材した(8月8日付け)
- 8月12日 NHKテレビ田辺支局が、夏休みイベント「解説ツアー」について取

材した（8月23日放映）。

- 8月27日 シニア自然大学マイスターコース一行（39名）を案内した。
- 9月20日 京大学生新聞に、水族館の紹介とナヌカザメの卵・幼魚に関する記事が掲載された。
- 10月12日 ラカン（イベント情報誌）に、「バックヤード体験学習」（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座に登録したイベント）の実施案内が掲載された。
- 10月13日・26日 「紀の国ふれあいバス」一行40人（13日）、38名（26日）（海南市内海生きがい教室）を、それぞれ2班に分けて案内した。
- 11月 1日 紀伊民報が、ハタタテギンボを取材した（11月 9日付け）。この魚（全長7cm）は、9月初旬に岡本昭生さん（白浜町袋漁港、漁業）が袋湾の筏固定用ロープに付いているところを採集したもの。中坊徹次 教授（京都大学総合博物館館長）によれば、本種の分布は従来、琉球列島以南で本州では初記録とのこと。
- 11月 4日 ジェーフイッシュ（クラゲのメーリングリスト）臨海実習一行（15名）を案内した。
- 12月12日 「バックヤード体験学習」（前出、10：00-12：00）を行った。参加者は一般2名、職員1名。
- 12月23日-1月8日 冬休みイベント「解説ツアー」を教員5名と技術職員3名とで実施した。無脊椎動物の水槽（とくに201~220号水槽）を案内する「無脊椎動物解説ツアー」（10：45~11：15、定員10名）とバックヤードを案内する「裏側ツアー」（11：15~11：45、定員10名）の二本立てで行い、計245人が参加した。

### 3. 機械・設備

- 1月22日 ボイラーが、バーナーのファンが損傷したため異常停止した。ボイラーで加温している水槽の水温が低下したため、急遽、第1水槽棟のヒートポンプチラーから温水送りができるようにバルブの切り換えを行った。修理部品は、ボイラーの製造会社に発注し、24日に修理を行って運転を再開した。
- 4月19日 ボイラーとヒートポンプチラーの運転を停止し、各循環系統の加温を終了した（水温上昇に伴う冬運転の停止）。
- 4月25日 No.3循環ポンプ（第2水槽棟）に異音が発生したため、予備ポンプと据え換えた。
- 5月 8日 201号水槽（「刺胞動物 花虫綱」）の照明（HID、150W、2基）を、照度強化のため水面から50cm上方の所まで下げた。
- 6月 8日-13日 冷水ポンプ（大実験水槽棟機械室）を整備し、消耗部品を取り換えた。
- 7月14日 第2水槽棟地階濾過槽スペースのコンクリート梁の一部が剥離・落下した。
- 7月18日-9月20日 チリングユニット（第1水槽棟）と冷却チラー（第4水槽棟）を夜間運転し、各循環系統の水温を26-28℃に維持した。
- 7月27日 第1水槽棟送りの上水道パイプへのバルブ取り付けを業者が行った。
- 8月 9日 サクションパイプ（海水揚水井戸内）のフート弁に多数のビニール片が巻きついたため、パイプを抜き出して除去作業を行った。

- 8月29日 第1水槽棟の上水道パイプからの漏水修理を業者が行った。
- 9月 8日 重油地下タンクの漏洩検査を業者が行った。
- 9月25日 自動火災報知器の受信機取り換え工事を業者が行った。7月5日の落雷により回路が焼損したため。10月13日には消防署による立会い検査が行われた。
- 10月12日 餌料用冷凍庫の修理（霜取りヒーターからの漏電）を業者が行った。
- 10月20日 消防設備点検が行われた。
- 10月23日 館内BGM装置を業者が修理した。
- 11月 6日・13日 ボイラーを分解・掃除および試運転を行った。
- 10月26日・27日 第4水槽棟第2循環系統貯水槽に、濾過槽からストレーナーの損傷に伴って流入した砂を、エアリフトを利用して濾過槽にもどした。
- 11月15日 第3水槽棟作業室に、第4循環系統（水量21.7t）に組み込んだ予備水槽2個（150ℓ、300ℓ）を設置・配管した。冬季に収集する南方系無脊椎動物の受け入れ水槽とするため。
- 11月28日 高圧受変電設備および低圧電気設備の精密点検を業者と担当職員が行った。点検中、停電（7：30-10：30）とし、自家発電装置で主要箇所へ送電した。
- 12月 4日 ボイラーを運転し、第2水槽棟各循環系統および101号水槽を19-21℃に、また保温チラーを運転し、第3・4水槽棟各循環系統を19-21℃に維持した（翌春まで）。
- 12月15日-25日 No.1循環ポンプ（第1水槽棟）が異音を発したので、モーターの修理を業者に依頼し、ポンプの整備を担当職員が行った。

#### 4. 収集・飼育・展示

- 1月12日 ニシキエビ1個体（体長41cm、湿重2.9kg）を湯川勝二さん（南部町堺・漁業）から購入した。白浜沿岸でのエビ刺網にかかったもの。2002年8月22日に白浜町網不知の漁師から1個体を購入して以来の収集となる。
- 1月18日 クラゲの写真パネル（180cm×46cm、2枚、12枚の写真を貼り付け）を、75周年記念写真展の跡の壁面に再掲示した。
- 1月18日・19日 マアジ、ムロアジ、マルアジ、ササムロ（226号水槽）のうち、眼球突出と脊椎湾曲の症状を呈する12尾を取り出した。
- 1月20日-24日 216号水槽（「棘皮動物 クモヒトデ綱・ヒトデ綱」）に繁殖した小形イソギンチャクを駆除するために、展示しているクモヒトデ類とヒトデ類をいったん回収し、淡水を張った。
- 1月20日-31日 白点病が303号水槽のアジアコショウダイやマダラトラギスなどに認められたため、この水槽の魚すべてを、同じ循環系統の305号水槽（オニオコゼ、サツマカサゴなどを展示）にまとめて収容し、閉鎖単独循環にして硫酸銅2gを4度投薬した。
- 1月24日 406号（「砂地の魚」）と409号水槽（「ウナギ目」）で、魚を一時取り出し、底砂の洗浄などの大掃除を行った。また、底砂を各100ℓ追加した。
- 1月25日 216号水槽内上方に設置したポケット（薄型）水槽2区画のうち、アライボヒトデやジュズベリヒトデなどを展示した水槽に、塩化ビニール製のネットで作成した中間蓋を設置し、ヒトデ類が水面近くに上らないようにした。多くのヒトデが水面近くにかたまり、ガラス面からはほとんど

ど姿が見えなかったため。

- 1月25日 袋漁港より搬入した魚類（アカマツカサ、マハタ、メイチダイ、イラなど6種7尾）に対し淡水浴を一分間行ったところ、ベネデニアの寄生を認めた。今後、外部からの魚類の搬入に際しては、淡水浴が必須となる可能性がある。
- 1月30日 ナヌカザメ雌（407号水槽、全長約1m）が1卵を産んだ。前年7月20日にこの水槽で始めて産卵して以来、合計20個になる。卵は407号水槽に吊るしたヤギの骨格に巻きつけて展示中。この水槽ではオス1尾（全長約90cm）が同居している。その後、年末までに1~3個の卵を11回、計18個産んだ。この水槽では、水温を年中15~16℃に維持している。
- 1月31日・2月9日 410号と411号水槽（各3区画）の大掃除をし、計10砂袋分の底砂を追加した。
- 2月 8日 303号水槽のコクテンカタギとセグロチョウウオ（各1個体）に対して淡水浴を行い、ベネデニアの寄生を認めた。
- 2月13日 カメノテ・クロフジツボを塔島渡り口付近の岩礁で採集し、209号水槽へ追加展示した。
- 2月18日 フエフキダイ（412号水槽）が他種魚の攻撃を受け死亡した（全長32.4cm、体長26.5cm、湿重580g）。2001年10月1日、岡本昭生さん（白浜町袋・漁業）から購入したもの。当時の全長約30cm。
- 2月24日 チカメキントキの最大級が死亡した。全長59.2cm、体長45.3cm、湿重5.15kg。周年15~16℃を維持した407号水槽で飼育展示していたもの。収集年月日は不明。
- 3月 1日 ヤマトメリベ1個体（全長約30cm）を、中村達也さん（近畿大学水産研究所）から受贈し、3月3日に303号水槽へ展示した。餌として生きたイソスジエビ10個体とミゾレヌマエビ20個体を与えたところ、翌日にはイソスジエビ5個体とヌマエビをすべて摂食していた。3月11日の産卵後、摂食が鈍り、3月19日には葉状突起が取れ始め、20日に死亡した。
- 3月22日 市販のリングファイルとカードケースを利用したファイル（以降、解説ファイルと呼ぶ。タイトル：「参考資料 大気中の二酸化炭素の増加とその影響」、B5、12ページ）を作成し、301号水槽前の台に設置し、自由に閲覧できるようにした。
- 3月23日 カンパチ（101号水槽内に浸けている「幼魚育成いけす」で飼育）が全長40cm以上に育ったので、いけすから外に5尾だけ出してみた。まもなくスギ（全長約150cm）に1尾が捕食されたが、夕方には他の大型魚に追われなくなった。
- 3月27日 シマダコ1個体（全長約70cm）を渡瀬政雄さん（白浜町江津良・漁業）から購入し、208号水槽へ展示した（2006年7月4日に死亡）。
- 3月28日 ベニクラゲの生活史を解説するパネル（久保田 信 助教授作成）を、ウォールケース向かい側の掲示板に掲示した。
- 3月30日 ハナミノカサゴの最大級と思われる個体が死亡した（411-2号水槽）。全長41.6cm、体長31.5cm、湿重1.4kg。入館年月日は不明。
- 4月 1日 オオサルパ（体長18cm、体幅9cm）を、真鍋 學さん（白浜町）から受贈し標本にした。田尻の磯で浮遊していたところを捕獲したとのこと。
- 4月 2日 タマガイ科の一種（殻長3.5cm）を、榎本隆夫さん（白浜町）から受贈した。田辺湾内産。
- 4月10日 401号水槽のチゴガニの出現状況が春になってもよくないため、このコ

ーナー（約1平方cm）の泥をすべて掘り返してみたところ、確認できたチゴガニは、雌2個体（甲幅6.8mmと7.0mm）のみだった。前年10月5日に甲幅3mm未満のチゴガニ100個体（雌雄の判別せず）を収容し、成長調査を行うつもりだったが失敗した。収容後、まだ小さいために巣穴を掘ることができず、多くの個体がまもなく死亡したものと思われる。

- 4月11日 シロブチハタ（413号水槽）が死亡した（雄、全長55cm、湿重4.25kg）。2000年9月4日、岡本昭生さん（前出）から購入したもので、当時の全長約31cm。
- 4月18日 ヒゲハギ1尾（全長19cm）を、真鍋 正さん（白浜町網不知・漁業）から受贈し、303号水槽に展示した（10月2日に死亡。死亡時の全長26.0cm、湿重400g）。白浜町田尻海岸の水深5～6mで打ち網にかかったもの。
- 4月18日 オキシジミ4個体、ヤマトオサガニ13個体、チゴガニ75個体、ホソウミニナ100個体、トビハゼ1個体を内之浦干潟（田辺市）から採集し、401号水槽（「干潟」）に展示した。その後、4月30日には、チゴガニ28個体、5月20日には38個体のウェイピングを確認した。
- 4月23日 ヒメセミアビ、ソメンヤドカリなど4種13個体を、田名瀬英朋さん（白浜町）から受贈した。堺漁港のエビ刺網にかかったもの。
- 4月28日 カンパチ15尾（101号水槽）を3月23日に引き続き、「幼魚育成いけす」から外に出した。他の大型魚からの捕食はなかった。
- 4月30日 タカノハダイ死亡個体にベネデニアを確認したので、肌虫駆除用経口薬（ハダクリーン）を添加した餌料を、411号水槽に3日間投与した。
- 5月 2日-11日 ウーディニウム病が第4水槽棟第2循環系統の魚類（とくにアイゴ・ニザダイ）に認められたため、硫酸銅280gを3度に及び投与した。406号水槽には硫酸銅の影響を受ける軟骨魚類がいるために、薬浴期間中は循環系統から切り離し開放式とした。
- 5月 6日 アミメノコギリガザミ1個体（雄、甲幅18cm）を、中村和彦さん（由良町）から受贈した。由良湾（水深3m）で捕獲したもの。
- 5月 7日 ホオアカクチビ（408号水槽、当館初飼育）が死亡した（全長28.2cm）。2004年8月18日、岡本昭生さん（前出）から購入したもの（当時の全長16cm）。飼育当初、本種に特徴的な鰓蓋後縁の朱点は認められず、イトフエフキと混同していたが、全長20cmを越す頃から朱点が出てきた。
- 5月18日-30日 白点病が305号水槽のオニオコゼなどに認められたため、硫酸銅を4度に及んで投与した。
- 5月24日 229号水槽（「磯の生物」）の海水を抜いて大掃除を行った。併せて、成長したクロメジナ37尾（全長約15～37cm）を北浜に放流し、メジナ4尾（18～28cm）を411-1号水槽へ移した。
- 5月31日 クサアジ1尾（全長約40cm）を白浜漁協椿支所より購入したが、6月1日に死亡し、標本とした。
- 5月31日 101号水槽（「中・大型回遊魚とサメ・エイ」）へのアジ切り身の給餌（週1回、普段は一日2回ペレットを給餌）を、今後消灯直後に行うこととした。明るいと、ギンガメアジなどの回遊魚がほとんどの餌を食べてしまい、エイラブカなどの底生魚に餌が当たらないため。
- 6月 6日 ウナギ5尾（全長40～50cm）を、太田 匠さん（白浜町）から受贈した。渡辺良一さん（白浜町）が、町内の小川で釣獲したもの。海水馴化後、6月12日に404号水槽（「内湾・川口の魚」）へ収容した。

- 6月 8日・14日 マアジ230尾(全長平均13cm)、ゴマサバ32尾(全長平均16cm)を岡本昭生さん(前出)から購入し、226号水槽(「群れをつくる小魚」)に收容した。
- 6月13-15日 203号水槽(「刺胞動物 花虫綱・ヒドロ虫綱」)の壁面で自然繁殖した小形イソギンチャク類を駆除するために、海水を抜いて淡水を張った。また今後、展示していたトゲトサカ類は、225号水槽で展示することにした。また225号水槽で展示していたジュウジキサンゴ、フタリビワガラシ、オトヒメエビは203号水槽で展示することにした。
- 6月17日-24日 白点病が305号水槽のダルマオコゼなどに認められたため、硫酸銅を2度投与した。
- 6月21日 旧第2水槽棟のコンクリート水槽2個(1933年製。水族館東側駐車場端に1994年以来設置)に対して解説を付した。
- 6月23日・7月22日 カゴカキダイ幼魚25尾(全長5.5-8.5cm)を、水槽内で自然繁殖する小型イソギンチャクの駆除者として第2水槽室の12個の水槽へ分配收容した。それまで一年間駆除者として働いたカゴカキダイ20尾(全長12-15cm)は水槽から取り出し、予備水槽へ移した。また、カワハギ幼魚2尾(全長4.5cm)を、底砂で自然繁殖するニホンウミケムシの駆除者として206号水槽へ收容した。206、216、217、218、219号水槽で、一年間働いたカワハギ5尾(全長25-28.5cm)を411-3号水槽(「フグ目」)へ移した。
- 7月 8日-12日 405号や408号水槽など6水槽の魚類にベネデニアが認められたため、経口薬を添加した餌を投与した。
- 7月11日 イトマキヒトデ1個体(幅長6.5cm)を島島で採集し、216号水槽に展示した。田辺湾内におけるイトマキヒトデの採集・入館は1996年8月29日以来。
- 7月12日 ハナオコゼ1尾(全長12cm)を、真鍋克次さん(白浜町網不知、漁業)から受贈した。田辺湾内の筏で釣獲した。
- 7月13日-15日 死亡したカサゴ(411-2号水槽)にベネデニアが認められたため、経口薬を添加した餌を投与した。
- 7月14日 ナムカザメ1尾が孵化した(407号水槽)。雌・全長19.6cm・湿重20g。予備水槽で飼育していたが、8月2日(全長22cm)に302号水槽に展示した。その後、9月25日には全長26cm、2007年1月14日には、全長33.1cm・湿重145gに成長している。
- 7月14日 白浜町袋湾からタコクラゲ35個体(傘径1~3cm)を採集した。また岡本昭生さん(前出)からアオチビキ1尾(全長30cm)を購入した。アオチビキは15年ぶりの展示になる。
- 7月15日 ソウシハギ1尾(全長12cm)を大江富夫さん(白浜町瀬戸、漁業)から受贈し、402号水槽(「藻場」)で蔓延しているセイタカイソギンチャクの駆除者として收容した。26日の観察では、イソギンチャクの数明らかに減少し、8月14日にはほぼ駆除できているのを確認した。
- 7月16日 イタヤガイ1個体(殻高7.6cm)を真鍋 正さん(白浜町網不知・漁業)から受贈した。田辺湾内産。
- 7月20日 410-2・3号水槽のスズメダイ類、ベラ類の体表が充血している個体が多いので、殺菌剤(エルバージュ)を浸透させた餌を与えた。
- 7月28日-11月28日 ヘダイ・クロダイ・ギンガメアジ・クサフグ・オキフエダイなど22種124尾の幼魚(白浜町安久川口・富田川口・日置川口で釣獲)を、荒賀忠一さん(白浜町)から20回に及んで受贈した。

- 8月 1日 サツキハゼ44個体（全長約6cm）を402号水槽（「藻場」）に展示した。これに伴い、本種を捕食すると思われるメバル39尾（全長12-15cm）とクジメ2尾（全長18.5、20cm）を予備水槽へ移した。
- 8月 2日 ナヌカザメの幼魚1個体（7月14日生まれ。全長22cmに成長）を302号水槽内に吊り水槽を設置して展示した。8月16日にも1尾が孵化し、この吊り水槽に移した。
- 8月 7日 スジムシ1個体（全長6cm。8月4日、番所崎で採集）を塩化ビニール板で作製した薄型容器に入れて228-4号水槽で展示した（8月22日死亡）。
- 8月11日 キンセンガニ1個体（甲幅7cm）を、真鍋 正さん（前出）から受贈した。白浜町藤島で刺網にかかったもの。
- 8月12日 208号水槽（タコ類を展示）の底の貝殻や礫の間に、ニホンウミケムシが猛繁殖したために、淡水を数時間張って駆除した。
- 8月14日・17日 カゴカキダイ幼魚14尾（全長3-4.5cm）を、第2水槽室の7つの水槽とその中の吊り水槽・ポケット水槽に1〜3尾ずつ収容した。
- 8月17日 マツダイ1尾（全長約5cm）・ナンヨウツバメウオ4尾（全長4-7cm）を、303号水槽に仕切りをして枯れ葉や枝と共に展示し、「枯れ葉擬態」というテーマの区画を作った。
- 8月18日 ミゾレブダイ3尾（全長8-12cm）を、鈴木博之さん（白浜町）から受贈した。今夏、白良浜海水浴場のブイに集まっていたところを採集し、自宅の水槽で飼っていたもの。
- 8月21日 ベニクラゲの研究と生活史、およびその報道に関するパネル7枚（久保田 信 助教授作製）を、第3水槽棟掲示板に追加した。
- 8月25日 ナンヨウツバメウオ、オキゴンベ、イトウダイ、ホシササノハベラ各1尾を、弓場 悟さん（白浜町瀬戸・漁業）から受贈した。
- 8月31日 ハナイソギンチャクモドキ2個体を、円月島付近の水深5mで初めて採集し、201号水槽へ展示した。
- 9月 4日・5日 305号水槽の展示変更（「形が変わった魚」から「川と海を行き来するエビ類」）に伴い、漏水する総ガラス水槽（200cm×100cm×60cm）からマクロボード製の水槽（180cm×60cm×50cm）に交換し、水深30cmの半水位にして展示することにした。
- 9月 5日 サンゴタツ1尾（高さ約6cm）を、真鍋喜代治さん（白浜町）から受贈した。網不知湾で捕獲したもの。303号水槽内の吊り水槽へ展示した。
- 9月 7日 ヘソアキクボガイ（殻径1-1.5cm）を、ガラス面などの付着藻類を駆除する目的で201〜220号水槽本体へ各7個体ずつ、またそれらの水槽内の吊り水槽やポケット水槽へ3個体ずつ収容した。
- 9月12日 クロダイ10尾（全長35-40cm）・ヘダイ6尾（全長40-45cm）（412号水槽）を、成長に伴って混み合ってきたために間引き、北浜へ放流した。これらの魚は、荒賀忠一さん（前出）から受贈した幼魚を、404号水槽（「内湾・川口の魚」）で一年間飼育展示した後、412号水槽に移し、数年を経たもの。
- 9月12日 マアジ14尾・ムロアジ2尾・ギンユゴイ1尾（226号水槽）を、眼球突出症や異常遊泳などのため処分した。
- 9月13日 404号水槽（「内湾・川口の魚」）で、約1年間飼育してきたギンカメラアジ、カスミアジ、クロダイなどを別の水槽に分散収容し、予め収集しておいた0歳魚に更新した。なお、ヒラスズキ、ウナギなどは残した。
- 9月21日 ウツカリカサゴ（全長49.2cm、湿重1.88kg、407号水槽）がヤセの症状

- を呈し死亡した。数ヶ月前から左眼がやや白濁し、膨出していた。2000年3月にNHKテレビの「クイズ 日本人の質問」に登場した。
- 10月12日-20日 白点病が303号水槽のマツダイなどに認められたため、硫酸銅を4度投与した。
- 10月16日 サカサクラゲの一種の幼クラゲ26個体（径2-10mm）とポリプ約80個体を、岡田 敏さん（沖縄県与那原町）から受贈した。熱帯魚店の水槽に繁殖していたもの。12月1日には、最大個体の傘径が4.2cmに成長した。
- 10月18日 305号水槽（「川と海を行き来するエビ類」）の前面に横方向へスライドする拡大レンズ（3倍。写真現像用レンズをはめ込んだもの）を取り付けた。
- 10月24日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）で展示動物の入れ替え作業（おもに0歳魚に更新）を行い、並行して底砂の洗浄などの大掃除を行った。
- 10月31日 ソウシハギ2尾を、224号水槽と402号水槽でインソギンチャク駆除の役目を終えたことから、今度は101号水槽内に設置した「幼魚育成いけす」と226号水槽へ移した。
- 11月 1日 ニシキウミウシとホンドオニヤドカリを、田名瀬英朋さん（白浜町）から受贈した。南部町堺漁港のエビ刺網にかかったもの。
- 11月 7日・14日 409～411-3号水槽（魚類のみを展示している6個の水槽）を、底砂洗浄などの大掃除を行った。また、いくつかの種では予備水槽の魚と交換した。
- 11月 8日 シャコ類1個体用の小水槽を塩化ビニール板とガラス板で作成し、303号水槽の中に浸け込んでトゲシャコ1個体（体長21cm）を展示した。この小水槽では、巣穴内の様子が観察できるように、水槽下方の奥行きを5cmと狭くしているが、泥がすぐに崩れて穴にならない。今後、泥質を改良する必要があると思われる。
- 11月12日 ヒメヌマエビ10個体を、305号水槽（「川と海を行き来するエビ類」）のガラスの内側に付けた小水槽に収容・展示した。
- 11月21日・27日 第2・4水槽棟の濾過槽9槽を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。
- 11月21日-25日 イソスズメダイ（410-2・3号水槽）にビブリオ症が確認されたため、殺菌剤を浸透させたペレットを与えた。
- 11月22日 アミメハギ1尾を、真鍋 學さん（前出）から受贈し、402号水槽へ展示した。
- 11月27日-29日 ベネデニア症用経口薬を添加した餌料（ペレット・オキアミ）を101と403号水槽へ給餌した。
- 12月 4日 ホソウミニナ30個体・チゴガニ40個体・トビハゼ2尾を、田辺市内之浦干潟から採集し、401号水槽（「干潟」）追加収容した。
- 12月 6日・7日 コガネスズメダイ（410-2・3号水槽）にビブリオ症が確認されたため、殺菌剤を浸透させたオキアミを与えた。
- 12月 8日-10日 ベネデニア症用経口薬を添加した餌料（アジ切り身・オキアミ）を101号水槽へ給餌した。
- 12月13日 クロダイ・キチヌのアノプロジスクス症（412号水槽と予備水槽に収容している計33尾）とツバメウオ・ナンヨウツバメウオのベネデニア症（408号水槽と予備水槽に収容している計12尾）を処置するために、魚を水槽からすくいだし、それぞれ30分間と5分間の淡水浴を行った。
- 12月13日-15日 ベネデニア症用経口薬を添加した餌料（オキアミ）を第4水槽棟第2系統

のいくつかの水槽へ給餌した。

- 12月18日 402号水槽（「藻場」）で蔓延したセイタカイソギンチャクの一部を駆除するため、展示生物をすべて取り出し、淡水を張った。22日に掃除後、展示を再開した。
- 12月18日 夜間採集で、スナイソギンチャク3個体を白浜町江津良の砂地で採集した。田辺湾周辺からのスナイソギンチャクの収集は、少なくともこの20年はない。
- 12月29日 ニセカンランハギ（408号水槽）の大型個体が死亡した。全長52.0cm、体長37.0cm、湿重2.65kg。幼魚から育てたものだが飼育期間は不明。

## 5. 生物観察メモ(水槽・野外)

- 1月15日 クロメ4株（402号水槽で展示中）の生長が目立ってきた。新しく伸長した部分は、表面がツヤツヤしていて付着生物がほとんど見られない。
- 1月17日 402号水槽で展示していた最後のハオコゼ（全長10.9cm）が死亡した。近年、田辺湾周辺からは収集していない。
- 1月30日 トウカムリ（303号水槽）の大きさを計測した。殻長17.5cm、重さ1280g。2004年10月26日入館時の殻長は16.8cmだった。餌としてはムラサキウニを与えているが、その捕食行動を写真撮影し、水族館ウェブページの「トピックス」に2月7日に掲載した。
- 2月 8日 アオウミガメ漂着死亡個体を、白浜町藤島で計測した。直甲長63.6cm、直甲幅55.8cm、雌。
- 2月17日 タカアシガニ（雌、2月16日購入個体）を収容した予備水槽（水量1t）の海水3ℓを、雄1個体を展示している223号水槽へ注いだところ、雄個体は急にせわしなく動き回るようになった。さらに3月2日に、水槽のガラスを柄付きスポンジで掃除していたところ、雄が柄にしがみついていた。掃除前に、柄付きスポンジのスポンジ部分が雌の入っている予備水槽に浸っていたからだと思われた。いずれの事例も、繁殖期におけるタカアシガニの雄が、雌の臭いに敏感に反応することを示していると思われる。
- 2月20日 アオウミガメ死亡個体が白浜町椿に漂着、計測した。直甲長89.6cm。
- 2月27日 トウカムリ（前出）に、餌としてオニヒトデを与えてみたが、まったく食べようとしなかった。その後、ムラサキウニを与えるとすぐに覆いかぶさって摂食した。
- 3月12日 アオウミガメ死亡個体が南浜に漂着し、計測した。直甲長71.2cm、直甲幅60.6cm、雌。
- 3月18日 マメダコ（予備水槽に浸けた採集容器内）が産卵し、保護し始めた。その後、孵化が終了（月日不明）し、7月2日に死亡した。
- 4月17日 イセエビの抱卵4個体（224号水槽）から前夜、孵化が行われた。これに伴い、第2水槽棟第3系統濾過槽が、フィロゾーマ幼生の流入により目詰まりを起こし、循環海水が減水してポンプが空転した。
- 5月25日 402号水槽（「藻場」）で、ヨメガカサ（殻長3.2cm）とケハダヒザラガイ（体長3.7cm）が、シシオドシ式の給水器（塩化ビニール板で作成したもの。6秒おきに約2ℓの海水を水面上から落下させ、水槽内に水の揺らぎをつくる）に付着していた。給水器と水槽とは離れているので、取水口から汲み上げられた海水の中にいた幼生が、給水器が常に揺れ動い

ているにもかかわらず定着し、成長したと思われる。

- 5月29日 クロメ2株(約7cm)が402号水槽(「藻場」)の壁面に自生しているのを確認した。親株は11株展示中。また8月1日には、2株(約10cm)が小石から伸び出ているのを確認した。
- 5月30日 サンゴイソギンチャクが分裂した(8:30:分裂中、13:30:分裂完了)。
- 6月6日-11月5日 スズメダイ科3種の産卵と卵保護行動が410-2・3号水槽(「スズキ目カゴカキダイ・チョウチョウウオ・キンチャクダイ・スズメダイ・ベラ・ブダイ科」)で見られた。卵は、水槽のエポキシ樹脂塗装壁面と水槽に入れたコンクリートブロックに産みつけられた。ロクセスズメダイ(成魚10尾)については6月6日~10月26日に33回、オヤビッチャ(成魚10尾)は6月21日~10月25日に36回、コガネスズメダイ(成魚12尾)は9月5日~10月24日に8回の産卵を確認した。
- 6月15日 ロウニンアジ4尾(101号水槽)の体色が黒ずみ、体色変化のない雌らしき2尾を追尾する行動が見られた。また午後、水槽が白濁したことから、本年初めて産卵に至ったと思われる。
- 6月29日 217号水槽が白濁した。ガンガゼが産卵したと思われる。
- 7月23日 カイウミヒドラ群体(シワホラダマシの殻上。228-5号水槽)が、水温上昇(開放式)に伴い縮小し、シワホラダマシの殻表面が見えるようになってきた。
- 7月26日 ヤツデスナヒトデ1個体(215号水槽)が、8:30ごろ、砂上で腕をくねらせ、腕の先端に近い部分から放精しているのを目撃した。水槽はすぐに白濁した。
- 8月7日 ヒダベリイソギンチャク1個体(302号水槽。周年約16℃)が15時ごろ放精していた。
- 8月17日 ハナデンシャにチビクモヒトデを与えたところ、1個体を食べた。
- 11月10日 ヒュサンゴ(201号水槽)の肉質部の分裂が完了し、2個体となったが、骨格は分離していない。
- 11月24日 ツノダシ1尾(全長14cm)を、すでにツノダシ1尾(全長16cm)のいる403号水槽(水量24.4m<sup>3</sup>)に追加収容したところ、まもなく古参者が新参者を激しく追い回し、鰭を損傷させたので、新参者を救出した。
- 11月25日 イラ(全長38.6cm)が、410-2・3号水槽(水量6.6m<sup>3</sup>)でタキベラ(全長約40cm)との闘争に敗れて死亡した。
- 12月9日 オニイソメ(204号水槽のポケット水槽で2000年7月から展示中)の体長を、ガラス越しに銅線を沿わせて測定したところ、約120cmあった。
- 12月31日 モンガラカワハギ2尾(全長22cmと全長26cm)を408号水槽(11m<sup>3</sup>)に12月21日から同居させてみたが、明らかな闘争は見られていない。

## 6. その他

- 12月23日-1月9日 冬休み期間中、小人(小・中学生)の入館料を無料とした。
- 1月10日 水族館開設75周年記念歴史写真展を終了し、写真パネルを撤収した。
- 1月20日 水族館飼育担当の技術職員公募が、京都大学公式ウェブサイトに掲示された。
- 2月8日 第2水槽棟電気室屋上の防水シートが強風によりめくれて破れ、またこの屋上に入入りするための鉄扉が腐食により脱落した。それぞれ応急処

- 置を施した。
- 2月24日 第1水槽棟の耐震検査が行われた。
- 3月 6日 技術職員（水族館飼育担当）の面接試験が行われた。
- 3月25日-4月 9日 春休み期間中、小人（小・中学生）の入館料を無料とした。
- 3月31日 田名瀬英朋 元助手が、派遣社員としての業務を終了した。
- 4月 1日 加藤哲哉 元教務補佐員が技術職員として採用された。おもに飼育展示業務を担当する。
- 5月23日 展示および普及活動小委員会を開いた。
- 5月29日 水族館検討会を開いた。
- 6月20日・21日 加藤哲哉 技術職員が、日本動物園水族館協会第72回近畿ブロック飼育係研修会（二見シーパラダイス）に参加し、「京都大学白浜水族館に繁殖する多毛類について」を発表した。
- 6月28日 中期計画小委員会を開いた。
- 7月21日-8月31日 夏休み期間中、小人（小・中学生）の入館料を無料とした。
- 9月21日・25日 第4水槽棟の水槽壁と濾過槽壁のひび割れに、モルタルを流し込んで補修した。
- 10月 3日-5日 紀本電子工業(株)が、第3水槽棟作業室に炭酸ガス計測機器関連の海水タンク2基を設置した(白山義久 教授との連携研究)。
- 10月19日・20日 名古屋港水族館（飼育部3名）による採集動物の一時保存のため、第3水槽棟作業室の水槽設備を一部提供した。
- 11月 6日 水族館検討会を開いた。
- 11月15日 カダヤシを撲滅するため、遺跡池（人工泉水）の水を抜き、底にたまった泥をすべて捨てた。
- 11月20日 水族館検討会を開いた。
- 12月23日-1月 8日 冬休み期間中、小人（小・中学生）の入館料を無料とした。